



東京都立多摩桜の丘学園  
生活指導部より  
令和7年12月12日発行  
第7号 校長 西田 良児

多摩桜祭には、保護者や地域の方、卒業生、関係機関など大勢の来校がありました。来校にあたり、徒歩や公共交通機関、自転車等のご利用ありがとうございました。肢体不自由部門を持つ本校では、車椅子や医ケアの児童・生徒の利用を想定した駐車場があります。しかしながら、多摩桜祭のような大きな行事となりますと皆さんに駐車場所を御案内するスペースがありません。合理的な配慮を優先して駐車などの対応を進めてまいりますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願い致します。

## いじめの早期発見・早期対応に向けた児童・生徒アンケート調査の報告

■調査の結果、各設問に対して「ある」「嫌な思いをしたことがある」などの回答は3件、御家庭からの回答票は2件でした。回収率は90%でした。アンケート期間中にお休みの方には、登校後にアンケートを実施する予定です。質問の意図や内容が分からないケースについては、教員が個別に説明したり聞き取ったりして回答しました。今回のアンケートでは、友達が突然「大きい声を出す」「接触してくる」など、自身が驚いたことを答えるケースがありました。現在は、授業中の座席やグループなどを配慮して見守っています。

■以上の内容について、「学校いじめ対策委員会」で検証した結果、今回のアンケート調査では、「いじめの重大案件」と認められる事案はなかったことを確認しました。しかしながら、家庭からの訴えがあった「いじめ」の件については、事実の確認や指導を積み重ね見守りを継続しています。「生徒一人一人のことを考えて指導してほしい」とのご意見に、しっかり対応していきます。

■2月予定の第2回「学校サポートチーム」において、今回の調査結果を報告いたします。学校への助言や支援については、「まもる!」でお知らせします。

## ふれあい月間の取り組みとは？

本校での目指す学校像、『子供一人一人を「守り」、「育て」、「伸ばす」学校』を受けて、「育てよう! 咲かせよう! 笑顔の花」をふれあい月間の年間テーマとして取り組みを行っています。

相手にあいさつをすることからコミュニケーションが生まれたり、ヤギさん郵便などで友達に感謝の手紙を書いたりすることで、相手や自分を大切に思う心を育てています。

学期ごとに重点テーマを設定し、6月「伝えよう」、11月「つながろう、発信しよう」2月「認め合おう」を意識して取り組んでいます。

様々な教科の学習活動を通して、あいさつをする習慣や相手への感謝の気持ちを育成し高めることで「優しい心。おだやかな気持ち。思いやり。」の気持ちが高まるよう各学部取り組みを行っています。

## 感謝状をいただきました

令和7年11月13日に、本校が多摩消防署より「感謝状」をいただきました。表彰の理由は、「消防行政に深い関心を寄せられ防火思想普及及び人命安全対策を積極的に推進し地域社会の安全安心に寄与したこと」です。今後も訓練や研修の充実に努めてまいります。



## 「心を育てる教育」ふれあい月間(11月)の取り組み ～ 育てよう! 咲かせよう! 笑顔の花



### < I 小学部 >

聖ヶ丘小学校と交流をしました。聖ヶ丘小学校の児童が考えてくれたゲームで遊んだり、ボッチャをしたりして楽しみました。交流を通して、地域の子供たちとの仲を深めることができました。



### < I 中学部 >

聖ヶ丘中学校とボッチャ交流をしました。各チームに分かれて予選を行い、決勝戦はとても盛り上がりました。交流を深めることで、障害理解・共生社会の実現につながっていく場となりました。



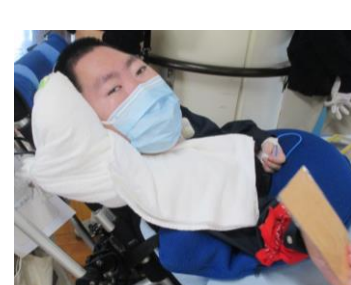
### < I 高等部 >

卒業後の事業所の方と一緒に販売体験をしました。スイッチを押して接客をしたり、お客さんにお勧めをしたりしながら、事業所の方やお客さんと直接触れ合うことができました。



### < 島田分教室 >

多摩桜祭に行き、本校の高等部の友達と一緒に販売活動を行いました。お店に来てくださったお客さんにお礼として、手作りはがきをしっかり手渡すことができました。



### < II 小学部 >

聖ヶ丘小学校と学校間交流を行いました。聖ヶ丘小学校の児童がグループごとに遊びを考えてくれました。「電車でGO」という繋がり遊びでは楽しみながら交流することができました。



### < II 中学部 >

聖ヶ丘中学校と一緒にマラソン大会を行いました。お互いの学校の生徒を応援し合う姿や、拍手を送る場面がよく見られました。学校や障害の壁を越えた交流をすることができました。



### < II 高等部 >

あいさつ運動を3日間行いました。高等部の生徒が挨拶を行うと、たくさんの児童生徒が挨拶を返してくれました。挨拶とともに、ハイタッチをする姿もありました。学部を越えた交流の場となりました。

